

動物の診察室から

○ 8 ○

新潟市東清掃センター内にはつんと立っているプレハブ、ここを訪れる人は心に深いかなしみをもち、何とかしなければと思います。私たち獣医師もこの施設、抑留所にいる動物たちを何とかしようと思っています。私たち新潟市獣医師会や、



新潟市東清掃センター内に立つプレハブの抑留所

すべては「ここから」

動物愛護団体がやることとしていくことは、すべて「ここから始まっていきます」。

二〇〇七(平成十九)年度、新潟市で猫の収容は九百七十四、処分されたのは八百七十六匹です。犬の収容は二百八十六匹で処分されたのは五十二匹です。この数は、各団体の努力もあって〇六年度よりも減少してい

面倒をみる(ことができないなどです。市民の方は、この抑留所がどこにあるか知らない方がほとんどです。そして、動物たちは多くの人に知られることなく処分されていくのです。今は、保健所も譲渡さ

れる可能性がある動物はなるべく処分しないようにしています。新潟動物ネットワークでは、積極的に新しい飼い主さんを探す活動や不妊手術の助成を行っています。新潟市動物愛護協会でも、外猫の不妊助成を行っている

どの区で、行政が猫の不妊助成制度を設けていますが、新潟県内では行政の助成制度はありません。

新潟市のホームページには保護犬リス(HP)があり、現在保護されている犬を知ることができ、新潟市以外の保護施設の動物たちは、県のHPより見ることができ、新潟市動物愛護協会のHPからリンクしてありますので、このページを見て、この子たちの命を助けてあげてください。

どうする抑留所の犬猫

現在、新潟市では抑留施設もある「小動物愛護センター」を作るべく場所の選定に入っています。ぜひ市の中心部に、市民の方々にたくさん利用してもらえる施設を併設したものを作って、このような現実があることを多くの方に知ってもらえるようになればと思います。

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝毎月第2・4木曜掲載＝

